

その色の淡く明るく雛あられ
雛あられ雛に母なく父もなし

水槽に金魚の眠る雛の間
まるちやんの細き手足や雛祭

階を御殿となせり雛飾る
子猫より小さき雛を飾りけり

先日は豆を撒きたる雛あられ

弟は姉の側近雛祭

雛壇に金の屏風の赤々と

炬燵にも分けてもらひし雛あられ

ひとり子は寂しからずや雛の灯

享保雛天井の灯に驚きぬ

鳥の鳴く声も聞こゆる雛あられ

雛飾る双子といへど姉いもと

女良しと書いて娘や雛祭

雛飾る人美しや雛祭

よく笑ふ弟も入れ雛の宴

姉妹とも思ふ三人官女かな

雛にも短き二月なりしかな

大奥に飾りしといふ古雛

雛壇の左右に紅白砂時計

湯上りのきやうだいげんか雛まつり

雛壇のうしろに月を沈めたる

爪楊枝よりも短し雛の笛

溶き皿に溶く朱鷺色や雛祭

街も家も雛も一夜の焼夷弾

雛壇の前に広げしおままごと

頭だけ替へる剃刀雛の夜

雛壇のみんな見て見てランドセル

着飾りて白きエプロン雛料理

ほほゑみの木の顔硬き雛かな

雛壇に背を向けて撮る写真かな

妹は乳飲めば足る雛の宴

立て籠るやうに雛の赤き闇

桃活けて雛はあらねどある如し

雛の間の燭が倒れて恐ろしや

雛壇のみんな見て見てランドセル 雛納め亀鳴くころと思ひつつ

6 爪楊枝よりも短し雛の笛 古き良き軽き木箱や雛納

4 雛壇に金の屏風の赤々と 外したる雛の毛氈長きかな

△ 雛壇の左右に紅白砂時計 くらやみのうへのくらやみ雛の箱

8 女良しと書いて娘や雛祭 神主の風にはたはた雛流し

5 姉妹とも思ふ三人官女かな 雛流し色あるものもなきものも

1 桃活けて雛はあらねどある如し 流れ行く雛に持たせし桜貝

2 階を御殿となせり雛飾る 雛流す舟の引きずる千羽鶴

3 雛飾る人美しや雛祭 雛流し時の流れの中にな

その色の淡く明るく雛あられ

鳥の鳴く声も色々雛あられ

雛にも短き二月なりしかな

47
雛壇に早くも二月の終りをな

飾られ雛に

飾りたる雛もその子も
美しや 飾る子も
美しや

2022・2・27【全然堂歳時記春】【雛祭】 選21句

桃活けて雛はあらねどある如し

雛納め亀鳴くころと思ひつつ

階を御殿となせり雛飾る

外したる雛の毛氈長きかな

雛壇に金の屏風の赤々と

古き良き軽き木箱や雛納

雛飾る人美しや雛祭

くらやみのうへのくらやみ雛の箱

姉妹とも思ふ三人官女かな

神主の風にはたはた雛流し

女良しと書いて娘や雛祭

雛流し色あるものもなきものも

爪楊枝よりも短し雛の笛

流れ行く雛に持たせし桜貝

雛壇のみんな見て見てランドセル

雛流す舟の引きずる千羽鶴

鳥の鳴く声も色々雛あられ

雛流し時の流れの中にかな

その色の淡く明るく雛あられ

雛壇に紛れ込んだる砂時計

雛の灯に早も二月の果てんとす

上ノ段組
5行4/2.27
2P21=235

2022・27【全然堂歳時記春】
【雛祭】 選22句

17行3段組14ボ 2022年2月27日 21:49 へ1 ✓ 桐9

桃活けて雛はあらねどある如し 雛の灯に早も二月の果てんとす

階を御殿となせり雛飾る 雛納め亀鳴くころと思ひつつ

~~雛壇に金の屏風の赤々と~~ 外したる雛毛氈の大いなる

~~雛飾る人美しや雛祭~~ 古き良き軽き木箱や雛納

飾られて雛美しや人もまた くらやみのうへのくらやみ雛の箱

姉妹とも思ふ三人官女かな 神主の風にはたはた雛流し

女良しと書いて娘や雛祭 雛流し色あるものもなきものも

爪楊枝よりも短し雛の笛 流れ行く雛に持たせし桜貝

雛壇のみんな見て見てランドセル 雛を積みし舟の引きずる千羽鶴

鳥の鳴く声も色々雛あられ 雛流し時の流れのなかかな

その色の淡く明るく雛あられ

雛壇に紛れ込んだる砂時計

桃活けて雛はあらねどある如し

人去りて三人官女なに話そ

神主の風にはたはた雛流し

壱の棒壱の臍へと雛壇組む

女良しと書いて娘や雛祭

雛流し色あるものもなきものも

壱の棒壱の臍へと雛の段

爪楊枝よりも短し雛の笛

流れ行く雛に持たせし桜貝

雛壇組むや壱の棒には壱の臍

雛壇の前でくるりとランドセル

雛を積みし舟の引きずる千羽鶴

雛飾り終へて縁側眩しけれ

鳥の鳴く声も色々雛あられ

雛流し時の流れの中にな

階を御殿となせり雛飾る

その色の淡く明るく雛あられ

雛壇に金の屏風の赤々と

雛壇に紛れ込んだる砂時計

雛飾る人美しや雛祭

雛の灯に早も二月の果てんとす

雛飾る母と娘の日曜日

雛納め亀鳴くころと思ひつつ

雛飾る母と娘の一休み

外したる雛毛氈の大いなる

飾られて雛美しや人もまた

古き良き軽き木箱や雛納

姉妹とも思ふ三人官女かな

くらやみのうへのくらやみ雛の箱

2022・28【全然堂歳時記春】
【雛祭】 選29句

17行3段組14ボ 2022年2月28日 14:16 ↑桐9

桃活けて雛はあらねどある如し

人去りて三人官女なに話そ

神主の風にはたはた雛流し

壱の棒壱の臍へと雛壇組む

女良しと書いて娘や雛祭

雛流し色あるものもなきものも

壱の棒壱の臍へと雛の段

爪楊枝よりも短し雛の笛

流れ行く雛に持たせし桜貝

雛壇組むや壱の棒には壱の臍

雛壇の前でくるりとランドセル

雛を積みし舟の引きずる千羽鶴

雛飾り終へて縁側眩しけれ

鳥の鳴く声も色々雛あられ

雛流し時の流れの中にな

階を御殿となせり雛飾る

その色の淡く明るく雛あられ

雛流し時の流れの中にな

雛壇に金の屏風の赤々と

雛壇に紛れ込んだる砂時計

雛流し時の流れの中にな

雛飾る人美しや雛祭

雛の灯に早も二月の果てんとす

雛流し時の流れの中にな

雛飾る母と娘の日曜日

雛納め亀鳴くころと思ひつつ

雛流し時の流れの中にな

雛飾る母と娘の一休み

外したる雛毛氈の大いなる

雛流し時の流れの中にな

飾られて雛美しや人もまた

古き良き軽き木箱や雛納

雛流し時の流れの中にな

姉妹とも思ふ三人官女かな

くらやみのうへのくらやみ雛の箱

雛流し時の流れの中にな

鳥の鳴く声も色々雛あられ
その色には
壱の棒

雛飾る母と娘の
よく午と休み
母夜のをまきと休み
雛納め亀鳴くころも

桃活けて雛はあらねどある如し

砂時計雛調度にはあらざるも

壺の棒壺の臍へと雛の段

~~雛壇~~に金の屏風の赤々と

雛壇の中に四角のい闇いくつ

雛壇の紅垂るる昼かな

蔵出しの箱出しの雛飾るなり

雛壇の前でくるとランドセル

雛飾る人美しや雛祭

鳴く鳥の声も色々雛あられ

雛飾る母娘のまたも手を休め

その色の淡く明るく雛あられ

雛飾り終へて縁側眩しけれ

炬燵にも分けてもらひぬ雛あられ

よく晴れて雛を飾れば眠たしよ

女良しと書いて娘や雛祭

階を御殿となせり内裏雛

雛の間を鬼より守る常夜燈

雛は赤に仏は金に座し給ふ

雛の灯に早も二月の終りかな

~~姉妹~~やも三人官女相似たり

人去りて三人官女なに話そ

2022・3・1【全然堂歳時記 春

【雛祭2】 選21句

毎年の雛祭り
おぼつたつた

おぼつたつた
おぼつたつた

あのこところのこところ
もほくをりつた

桃活けて雛はあらねどある如し

壱の棒壱の臍へと雛の段

雛壇の内に四角い闇がある

蔵出しの箱出しの雛飾るなり

雛飾る人美しや雛祭

雛飾る母娘のまたも手を休め

あんなことそんなこと雛飾りつつ

雛飾り終へて縁側眩しけれ

よく晴れて雛を飾れば眠たしよ

階を御殿となせり内裏雛

雛は赤に仏は金に座し給ふ

人去りて三人官女なに話そ

砂時計雛調度にはあらざるも

雛壇の紅垂るる昼かな

雛壇の前でくるとランドセル

鳴く鳥の声も色々雛あられ

その色の淡く明るく雛あられ

炬燵にも分けてもらひぬ雛あられ

女良しと書いて娘や雛祭

雛の間を鬼より守る常夜燈

雛の灯に早も二月の終りかな

眠られど
雛を飾りし手不れど